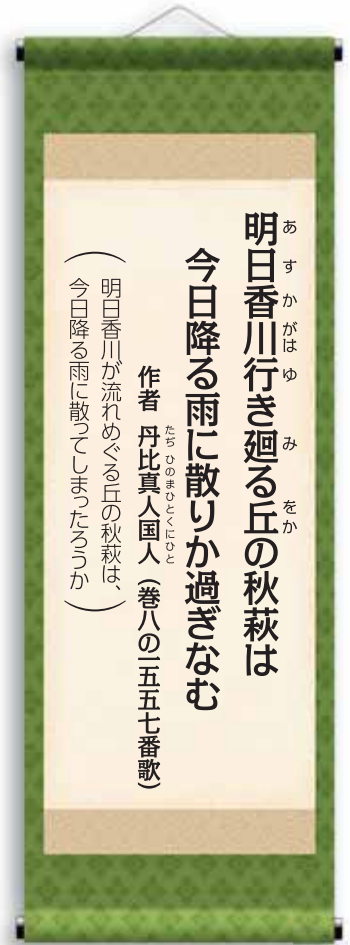
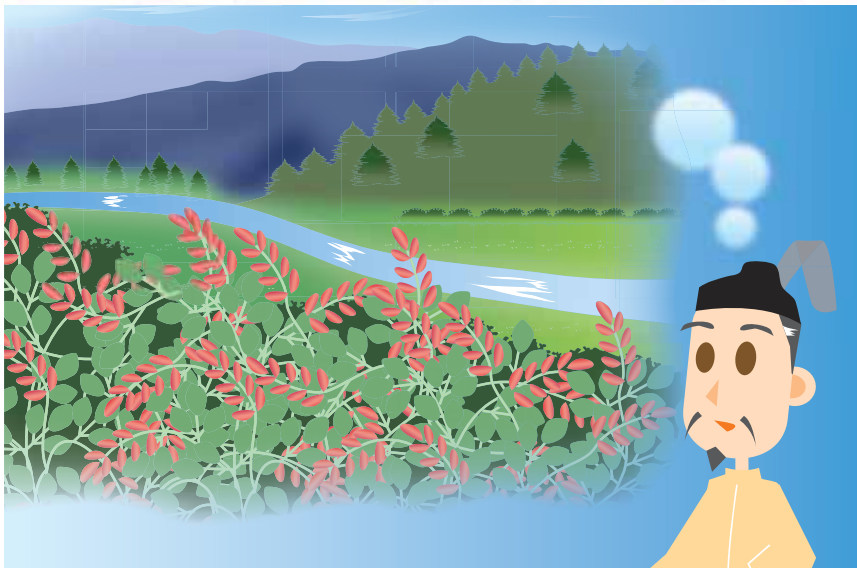




明日香のハギ



『万葉集』には数多くの植物名が詠みこまれていますが、そのなかでもっとも多く詠まれているのがハギです。百四十一首みられます。

「萩」という文字は、中国ではカワラヨモギやヒサギをしめす語として使われており、日本というハギとは植物が異なります。ハギに「萩」の文字が使われるのは『播磨国風土記』が早い例とされていますが、唯一の伝本である平安末期の写本では「萩」(末ではなく)となつているため再考の余地があるという指摘があります。『万葉集』でも「萩」の文字は使用されておらず、「芽子」という文字が多く使われています。これは刈りつた根からでも、毎年

のように新たな芽が出るという性質をあらわした用字であると考えられています。ちなみに若い葉や茎は栄養価が高く、食べることでできるそうです。

右の歌には「故郷の豊浦寺の尼の私房にして寝せる歌」という題詞(タイトル)が付いています。甘樫丘の北麓にある豊浦寺にいた尼と交わした歌のひとつです。

「明日香川 行き廻る丘」については、雷丘や甘樫丘とする説があり定まっていません。ハギは低木で花弁の小さな植物ですが、万葉びとは高田や春日野などの郊外でも花を觀賞しそれが散るのを惜しんでいます。ウメやモミジだけではなく、ハギに強い関心が寄せられているところに、当時の美意識を感じることができないのではないのでしょうか。



甘樫丘と植物園路

今回の歌が詠まれた甘樫丘は、大和三山を望む絶好の展望台。その展望台へ続く「万葉の植物園路」という散策コースがあります。この散策コースでは、万葉集や古事記、日本書紀などに出てくる植物をクイズ形式で楽しみながら学ぶことができます。まだまだ暑いですが、万葉の時代の植物を楽しみに行きませんか。



クイズ

先月の答え

① 上流から流れてきた剣が布で止まったからでした。突然、剣が流れてくるなんてびっくりよね。

今月の問題

Q 万葉集の中で二番目に多く読まれている花は?

① 桜
② 梅
③ ハイビスカス

答えは来月号を見てね

